

外来でのストーマ術前オリエンテーションにおける皮膚・排泄ケア認定看護師の看護実践がストーマリハビリテーションの進展にもたらす意味と実践上の指針

中村公美恵（応用看護学）

【キーワード】 ストーマ・外来・ストーマ術前オリエンテーション・皮膚・排泄ケア認定看護師・ストーマリハビリテーション

本研究の目的は、外来でのストーマ術前オリエンテーション(以下オリエンテーションとする)における皮膚・排泄ケア認定看護師の看護実践がストーマリハビリテーションの進展にもたらす意味を明らかにし、実践上の指針を得ることである。研究対象は4事例の自己の看護実践である。

研究方法は、ストーマ造設予定患者に対するオリエンテーションでの看護過程より、看護実践の根拠となる認識と表現の特徴を抽出し、かつ、オリエンテーション時・術後・退院後外来受診時における患者の反応を追ってその変化からオリエンテーションがストーマリハビリテーションの進展にもたらす意味を明らかにして自己のストーマ造設患者への看護体験と重ねて検討し、オリエンテーション実践上の指針を抽出した。

今回の研究では、オリエンテーション場面だけでなくその後のストーマリハビリテーションの一連の経過を辿ることで、患者が排泄経路の変更という事実と向き合いながらストーマと共に生きていこうとする過程が明らかとなった。そして皮膚・排泄ケア認定看護師は、患者と出会う前から常に患者の位置に近づいて移り変わる心情を推し量り、全ての場面において役割意識を持ちながら認識と表現の過程を繰り返すことによって、患者の持てる力を支え大きくしていた。これらの過程は、患者の経過や反応からもストーマリハビリテーションの円滑な進行に関わっていることが明らかとなり、オリエンテーション実践上の指針の土台に繋がっていた。

オリエンテーション実践上の指針を以下に示す。

- 1.前準備として、患者の身体内部の変化とこれまで乗り越えてきた険しい道程に目を向け、ストーマ造設という試練を前にした患者の持てる力が高まるよう、ストーマリハビリテーションの進行や退院計画を予測しオリエンテーションを患者との関わりの始点と捉える。
- 2.事前に得た患者の病状、心情、生活などの情報を想起して対象像を描き、未知の治療に立ち向かわなくてはならない患者の心情を察しながら、患者が抱えているストーマのイメージを確認し、その内容に共感しながらオリエンテーションを開始する。
- 3.健常時の身体構造と機能に照らしながら患者の病態と治療経過を段階的に辿ってストーマ造設の意味を共有し、説明への反応の変化を捉えながら患者に形成されつつあるイメージや心情を汲み取り、術後の失禁や装具管理を自己に起きる変化として理解できるよう説明を重ねる。
- 4.生活環境や社会的役割について事前情報と関連させながら患者の揺れ動く心情を追体験し、術後安心して生活できるイメージを具体的に描けるよう説明し、状況に応じて社会資源活用を提供するなどして不安を軽減する。
- 5.表明された目標や意志、周囲の支える力から患者のさらなる持てる力を捉え、看護師としての役割意識を高めながら患者を継続的に支え、共に歩む意志を伝える。